



(19)

(11) Publication number: **20**

Generated Document

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(21) Application number: 11131791

(51) Intl. Cl.: A45D 44/22

(22) Application date: 02.04.99

(30) Priority:		(71) Applicant: SANEI PRESS:KK
(43) Date of application publication:	17.10.00	(72) Inventor: TAKAHASHI MASAMI
(84) Designated contracting states:		(74) Representative:

(54) FACE MASK SHEET

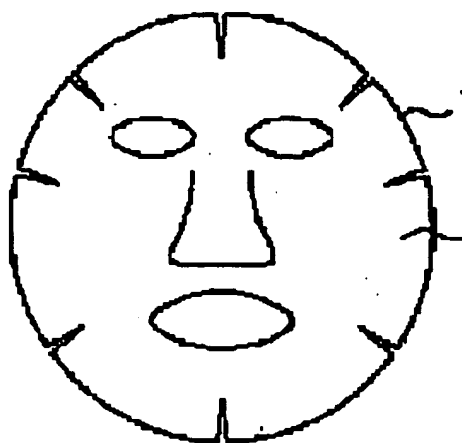
(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To save the labor and time when a face mask sheet impregnated with a face lotion is spread to a face shape from a folded state and is applied to the face.

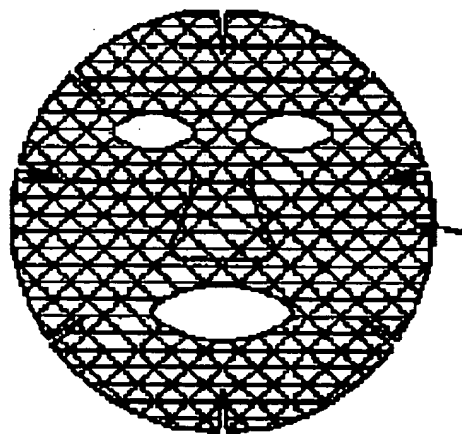
SOLUTION: The face mask sheet 1 is formed by superposing and joining a net-like resin film 3 to one surface of a nonwoven fabric 2 and blanking the resultant laminate to the face shape. In such a case, the front surface side (the side to be applied on the face) is the cellulosic nonwoven fabric 2 and the rear surface side is the net-like resin film 3 made of 9 g/m² polyethylene. These films are joined by thermal welding by means of a laminator device.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

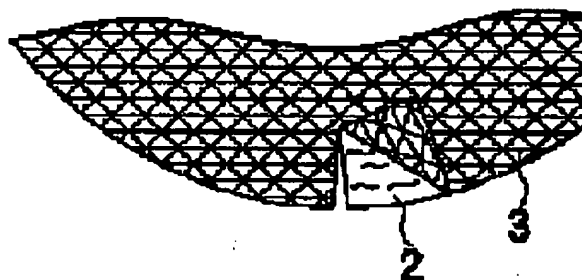
(a)



(b)



(c)



BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-287751
(P2000-287751A)

(43) 公開日 平成12年10月17日 (2000.10.17)

(51) Int.Cl.⁷
A 4 5 D 44/22

識別記号

F I
A 4 5 D 44/22

テームト* (参考)
C

審査請求 未請求 請求項の数 5 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-131791

(22) 出願日 平成11年4月2日 (1999.4.2)

(71) 出願人 592262901

有限会社三栄プレス

愛知県葉栗郡木曾川町大字門間字新屋敷10
番地

(72) 発明者 高橋 雅己

愛知県葉栗郡木曾川町大字門間字新屋敷10
番地 有限会社三栄プレス内

(74) 代理人 100096116

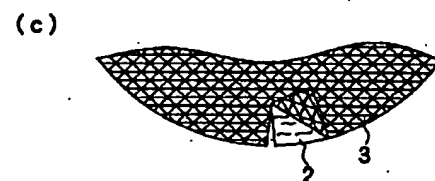
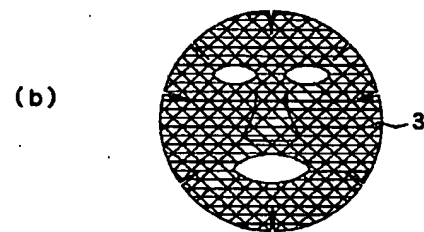
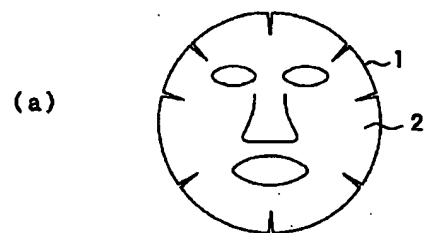
弁理士 松原 等

(54) 【発明の名称】 フェイスマスクシート

(57) 【要約】

【課題】 化粧水を含浸したフェイスマスクシートを折り畳まれた状態から顔形状に展開して顔に当てる際に手間と時間がかからないようにする。

【解決手段】 フェイスマスクシート1は、不織布2の片面にネット状樹脂フィルム3を重ねて接合してなり、この接合されたものが顔形状に打ち抜かれている。本例では、表面側（顔に当てる側）がセルロース系の不織布2であり、裏面側が9 g/m²のポリエチレン製のネット状樹脂フィルム3であり、ラミネータ装置による熱溶着により接合されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 不織布の片面、両面又は内部に穴あき樹脂フィルムを重ねて接合してなるフェイスマスクシート。

【請求項2】 前記穴あき樹脂フィルムが、ネット状樹脂フィルムである請求項1記載のフェイスマスクシート。

【請求項3】 前記穴あき樹脂フィルムが、5～20g/m²のものである請求項1又は2記載のフェイスマスクシート。

【請求項4】 前記フェイスマスクシートが、圧縮塊に圧縮されている請求項1、2又は3記載のフェイスマスクシート。

【請求項5】 前記フェイスマスクシートが、折り畳まれて化粧水が含浸されている請求項1、2又は3記載のフェイスマスクシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧パックに使用するフェイスマスクシートに関するものである。

【0002】

【従来の技術】図4に示すように、従来のフェイスマスクシート51は不織布が顔形状に打ち抜かれてなり、これが折り畳まれてから、円盤状の圧縮塊（図示略）に圧縮されて市販されている。このフェイスマスクシート51を使用するには、圧縮塊に化粧水を含浸させて柔らかくし、該圧縮塊を折り畳まれた状態に戻してから、顔形状に展開して顔に当てる必要がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、この化粧水を含浸したフェイスマスクシート51を折り畳まれた状態から顔形状に展開する際に、図4に示すように、折り重なった部分52同志がくっついて剥がしにくい、きれいな顔形状に展開するまでにかなりの手間と時間がかかるという問題があった。また、展開したフェイスマスクシート51を顔に当てる際にも、フェイスマスクシート51の一部がまた折り重なると、そこを剥がして当て直す必要があって面倒であった。

【0004】本発明の目的は、上記課題を解決し、化粧水を含浸したフェイスマスクシートを折り畳まれた状態から顔形状に展開して顔に当てる際に手間と時間がかからないようにすることにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明のフェイスマスクシートは、不織布の片面、両面又は内部に穴あき樹脂フィルムを重ねて接合してなる構成とした。

【0006】不織布の材料は、特に限定されず、セルロース系（バルブ、コットン、レーヨン等）、ポリエステル系等を例示することができる。後述するように圧縮塊に圧縮される場合にはセルロース系が好ましく、折り畳

まれて化粧水が含浸される場合にはセルロース系でもポリエステル系でもよい。

【0007】穴あき樹脂フィルムの穴の形、寸法、数等は、特に限定されず、多数の小穴のあいた樹脂フィルムや、網目自体が穴であるネット状樹脂フィルムを例示することができるが、通液性や手触り感が良い点で、ネット状樹脂フィルムが好ましい。穴あき樹脂フィルムの樹脂材料は、特に限定されず、ポリエチレン、ポリプロピレン等を例示することができる。穴あき樹脂フィルムの厚さは、フェイスマスクシートに適度な腰の強さを与えうるものであれば、特に限定されないが、5～20g/m²のものが好ましい。

【0008】不織布と穴あき樹脂フィルムとの接合方法は、特に限定されず、不織布の片面又は両面に穴あき樹脂フィルムとを重ねて熱溶着、圧着又は接着により接合する態様や、二枚の薄い不織布の間に穴あき樹脂フィルムを挟んで熱溶着、圧着又は接着により接合する態様や、不織布の形成時にその内部に穴あき樹脂フィルムを埋設して接合する態様等を例示することができる。

【0009】フェイスマスクシートの製品の態様としては、圧縮塊に圧縮されている態様や、折り畳まれて化粧水が含浸されている態様を例示することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】図1～図3は、本発明を具体化したフェイスマスクシート1の実施形態例を示し、図1に示すように、不織布2の片面にネット状樹脂フィルム3を重ねて接合してなり、この接合されたものが顔形状に打ち抜かれている。本例では、図1(a)に示す表面側（顔に当てる側）がセルロース系の不織布2であり、図1(b)に示す裏面側が9g/m²のポリエチレン製のネット状樹脂フィルム3であり、ラミネータ装置による熱溶着により接合されている。図1(c)は、不織布2からネット状樹脂フィルム3の一部を剥がして見せた図である。

【0011】このフェイスマスクシート1は、図2(a)～(c)に示すように折り畳んだ後、図2(d)に示すように丸めて圧縮機により矢印方向に圧縮し、図2(e)に示すように円盤状の圧縮塊4に圧縮されて製品化することができる。この場合、フェイスマスクシート1は、圧縮塊4の表面にネット状樹脂フィルム3が現れないようにするために、ネット状樹脂フィルム3を内側にして折り畳むことが好ましい。

【0012】また、このフェイスマスクシート1は、図3(a)～(c)に示すように折り畳んだ後、化粧水を含浸させて、図2(d)に示すようにパッケージ5して製品化することもできる。この場合、フェイスマスクシート1は、ネット状樹脂フィルム3を内側にして折り畳むことが好ましいが、不織布2を内側にして折り畳んでもよい。

【0013】このフェイスマスクシート1によれば、不

織布2の片面にネット状樹脂フィルム3を重ねて接合しており、不織布のみの場合と比べて腰が適度に強くなっていること、また、ネット状樹脂フィルム3にはサラサラ感があって付着性が少ないことにより、化粧水が含浸した状態で折り重なっていても容易に剥がすことができる。また、ネット状樹脂フィルム3は穴があいているため、化粧水の含浸を妨げることはなく、従来品と同様に含浸させることができる。従って、図2(e)の圧縮塊4に化粧水を含浸させて柔らかくし、該圧縮塊4を折り畳まれた状態に戻してから、フェイスマスクシート1を顔形状に展開する際に、手間と時間がかからない。また、図3(d)のパッケージ5から取り出した化粧水含浸済みで折り畳まれた状態のフェイスマスクシート1を顔形状に展開する際にも、手間と時間がかからない。さらに、展開したフェイスマスクシート1を顔に当てる際にも、適度な腰があることからフェイスマスクシート1の一部が折れにくく、うまく当てやすい。

【0014】なお、フェイスマスクシート1は、基本的には不織布2側を顔に当てるが、好みによってはサラサラ感のあるネット状樹脂フィルム3側を顔に当ててもよい。また、不織布2側とネット状樹脂フィルム3側とを判別しやすいように、不織布2とネット状樹脂フィルム3の色を変えることが好ましい。

【0015】なお、本発明は前記実施形態に限定される

ものではなく、発明の趣旨から逸脱しない範囲で適宜変更して具体化することもできる。

【0016】

【発明の効果】以上詳述した通り、本発明のフェイスマスクシートによれば、化粧水を含浸したフェイスマスクシートを折り畳まれた状態から顔形状に展開して顔に当てる際に手間と時間がかからないという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係るフェイスマスクシートを示し、(a)は表面図、(b)は裏面図、(c)は(b)の部分拡大図である。

【図2】同フェイスマスクシートを折り畳んで圧縮塊にするときの説明図である。

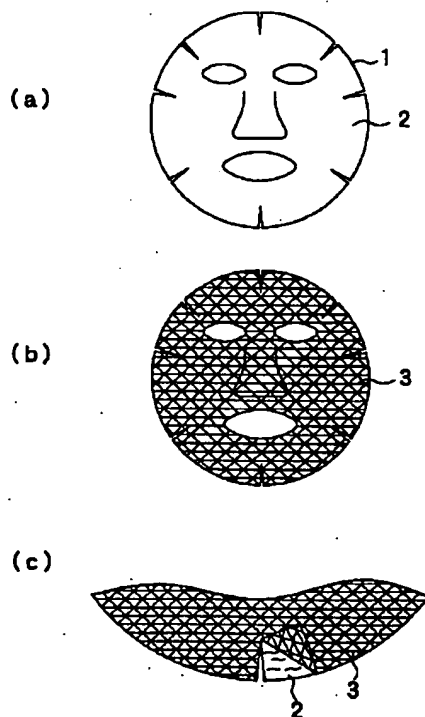
【図3】同フェイスマスクシートを折り畳んでパッケージ化する時の説明図である。

【図4】従来のフェイスマスクシートの問題点を示す表面図である。

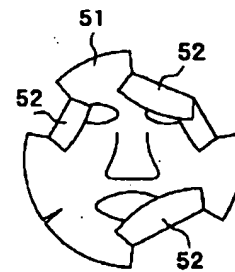
【符号の説明】

- 1 フェイスマスクシート
- 2 不織布
- 3 ネット状樹脂フィルム
- 4 圧縮塊
- 5 パッケージ

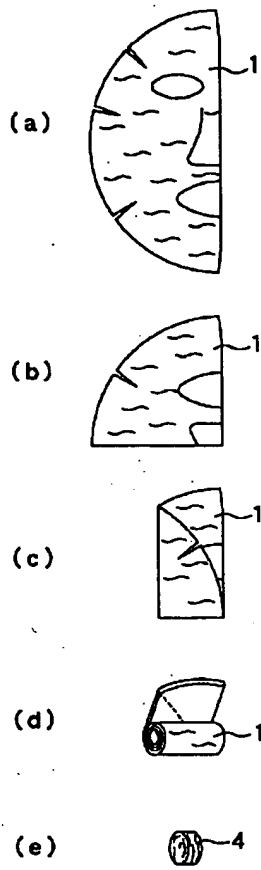
【図1】



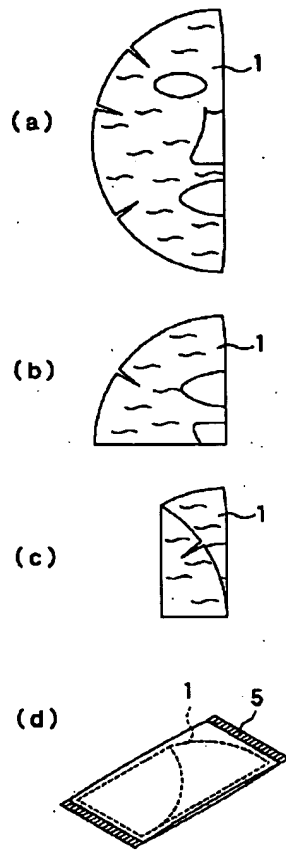
【図4】



【図2】



【図3】



特開平11-131791

(43) 公開日 平成11年(1999) 5月18日

(51) Int.Cl.⁸ 識別記号

E 0 4 G 3/10

F 1 6 L 55/18

F I

E 0 4 G 3/10

F 1 6 L 55/18

A

B

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-299804

(22) 出願日 平成9年(1997)10月31日

(71) 出願人 000004123

日本鋼管株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目1番2号

(72) 発明者 佐々木 正敏

東京都千代田区丸の内一丁目1番2号 日

本鋼管株式会社内

(72) 発明者 原田 敏敬

東京都千代田区丸の内一丁目1番2号 日

本鋼管株式会社内

(72) 発明者 宝地 民男

東京都千代田区丸の内一丁目1番2号 日

本鋼管株式会社内

(74) 代理人 弁理士 高野 茂

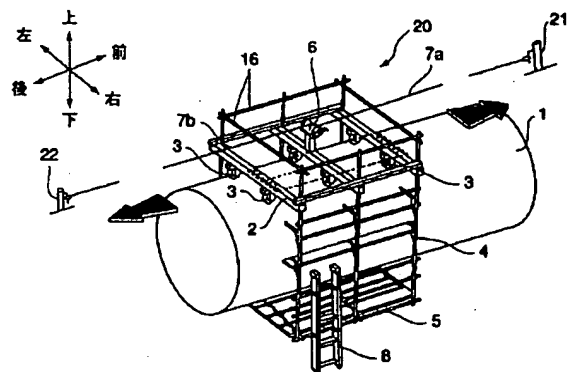
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 架空配管用作業枠

(57) 【要約】

【課題】 一度組み立てた吊り足場を解体することなく配管に沿って移動することができる架空配管用作業枠を提供する。

【解決手段】 配管1の上面を転動する複数の車輪3を有する上部枠2と、該上部枠に設けられたウインチ6と、該上部枠から前記配管の側方に垂設する側面枠4と、前記配管の下面の下に位置し前記側面枠の下辺に取り付けられた下部枠5とからなる架空配管用作業枠。ウインチを手動ウインチにすることもできる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 配管の上面を転動する複数の車輪を有する上部枠と、該上部枠に設けられたウインチと、該上部枠から前記配管の側方に垂設する側面枠と、前記配管の下面の下に位置し前記側面枠の下辺に取り付けられた下部枠とからなる架空配管用作業枠。

【請求項2】 ウインチが手動ウインチである請求項1記載の架空配管用作業枠。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、架空管の塗装や補修等の作業を行うための作業枠に関するものである。

【0002】

【従来の技術】高所に架設された配管の塗装を行うときは、配管に沿って地上から足場支柱を組み上げてゆき、配管周りの作業床をその支柱に構築して行っている。この方法は、多くの足場支柱および足場材を必要とする。この足場材等を少なくし、その組み立て工数を少なくするために図3に示すような吊り足場を仮設して行うことも行われている。この吊り足場は、配管1の上面に当て物11を介装して複数本の縦角形鋼管10を配管1に直交して配設し、角形鋼管10の両端部にそれに直交して横角形鋼管12を渡し、これらの縦横の各角形鋼管10、12から複数の吊りチェーン13を垂設する。この吊りチェーン13により配管1の下に下部足場枠14を支持し、この下部足場枠14の上に足場板15を渡して作業床として塗装作業を行い、足場範囲の作業が終了したら、吊り足場を解体し隣の未塗装の配管に吊り足場を掛け直し塗装する。このように次々と足場を解体し掛け直しながら行うものである。この吊り足場は、配管の下に樹木の植え込みや道路がある場合に特に有効である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上述した吊り足場は、吊り足場の範囲の塗装等の作業が終わる都度、足場を解体し、再びクレーン車等を使用して掛け直しを行わねばならず煩雑で工数がかかるという問題があった。

【0004】本発明は、このような問題を解消するために一度組み立てた吊り足場を解体することなく配管に沿って移動することができる架空配管用作業枠を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を、配管の上面を転動する複数の車輪を有する上部枠と、該上部枠に設けられたウインチと、該上部枠から前記配管の側方に垂設する側面枠と、前記配管の下面の下に位置し前記側面枠の下辺に取り付けられた下部枠とからなる架空配管用作業枠によって達成する。前記ウインチを手動のウインチにすることもできる。

【0006】「作用」作業枠を適当個所で組み立てすれ

ば、上部枠に設けられた複数の車輪とウインチにより配管に沿って移動することができる。従って、配管の下に道路や植木等があっても支障無く作業ができる。また、従来のように作業位置を変更することに行っていた作業枠および足場板の解体、組み立て作業を省略できる。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を図面に基づいて以下に説明する。

【0008】図1は、本発明の架空配管用作業枠の斜視図、図2は、本発明の架空配管用作業枠の側面図である。1は塗装作業等の対象配管、2は上部枠であり、軽量リップ溝形鋼、角形鋼管または溶接角形鋼管を格子状に組み立てたもので、その下面に複数のタイヤ付き車輪（この例では3対、6個）3が設けられている。各一對の車輪は図2に示すように配管の頂線を跨いで左右に配設されている。

【0009】上部枠の中央の横部材上には手動または電動のウインチが取り付けられている。また、上部枠上には角形鋼管または丸鋼管で組み立てられた安全柵16が設けられている。

【0010】4は上部枠2から配管1の側方に垂設する側面枠で、軽量リップ溝形鋼、角形鋼管、溶接角形鋼管または丸鋼管を複数本組み合わせで構成されている。

【0011】配管1の下に下部枠5が取り付けられている。この下部枠5は左右の側面枠4、4の下端に、側面枠4と同様の部材を左右方向および前後方向に組合せ、水平に架け渡し取り付けである。

【0012】4a、4bは前記側面枠の内側に取付けたブラケットに取付けた足場板で、上部の足場板4aは配管の上部を、足場板4bは配管の下部を塗装等の作業するために設けられたものである。上部枠3および下部枠5にも足場板が取付けられる。

【0013】側面枠4、4の内側に、図2に示すように、架空配管用作業枠20の横振れを規制するために振れ防止用ガイドローラー23が複数個取付けられている。

【0014】8は梯子で、地上から下部枠5の間に立て掛けられ、作業者が架空配管用作業枠20に昇降するために使用される。

【0015】次に、架空配管用作業枠20を移動する方法を説明する。図1に示すように、配管の作業範囲の前後端付近の配管1上または既設の架構にウインチワイヤー7a、7bの係止金具または支柱21、22を取り付け、これらにウインチワイヤー7a、7bの端部をそれぞれ取付ける。作業枠20を前方に移動するときは、ウインチワイヤー7bを巻き戻しつつウインチワイヤー7aを巻取りして移動する。反対に、作業枠20を後方に移動するときは、ウインチワイヤー7aを巻き戻しつつウインチワイヤー7bを巻取りして移動する。なお、作業枠20を移動する前に梯子8は外される。

【0016】

【発明の効果】本発明の架空配管作業枠によれば、配管の下に道路があっても、交通を妨げることなくまた、植木等があってもそれらを損傷することなく作業枠の架設ができる。また、従来のように作業位置を変更することに行っていた作業枠および足場板の解体、組み立て作業を省略することができ、段取り作業の大幅な工数および時間の節減ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の架空配管作業枠の斜視図である。

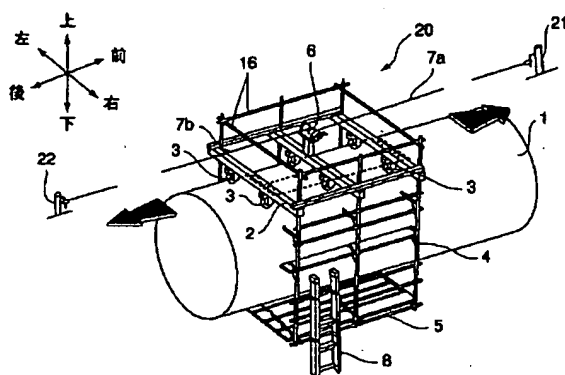
【図2】本発明の架空配管作業枠の側面図である。

【図3】従来の架空配管作業枠の矢視図である。

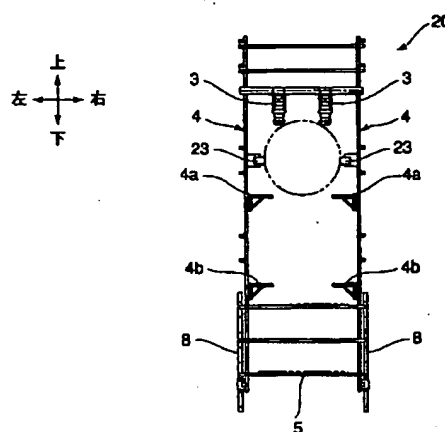
【符号の説明】

- 1 配管
- 2 上部枠
- 3 タイヤ付き車輪
- 4 側面枠
- 5 下部枠
- 6 ウインチ
- 7 a, 7 b ウインチワイヤー
- 8 梯子
- 20 架空配管作業枠
- 21、22 係止金具または支柱
- 23 振れ防止用ローラー

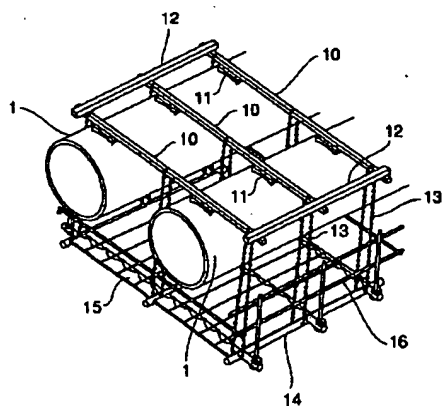
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 大谷 哲夫

東京都千代田区丸の内一丁目1番2号 日
本鋼管株式会社内